

## 百日咳 発生動向

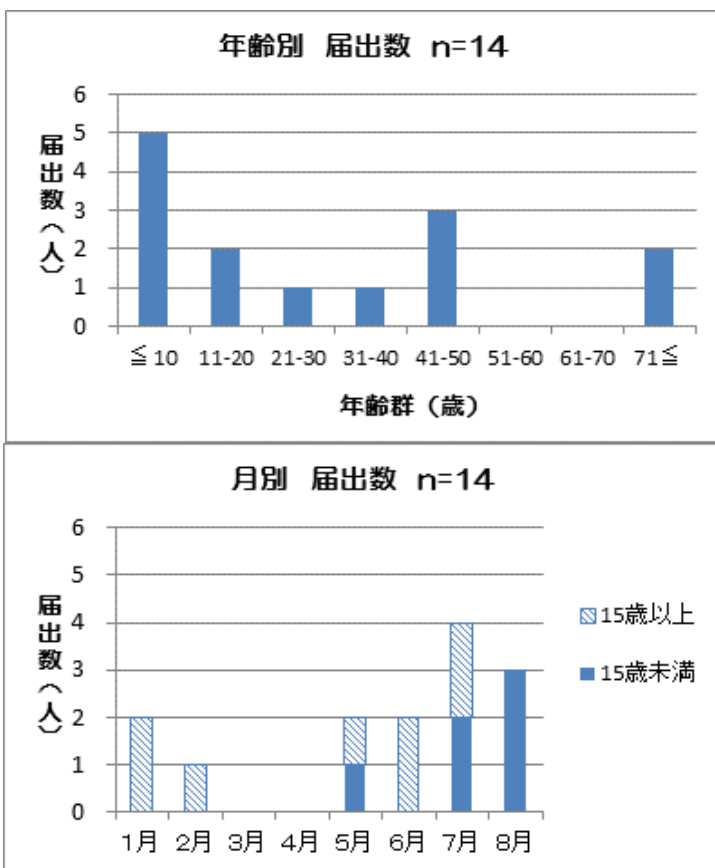
近年の百日咳の発生動向については、過去30年で約10分の1に減少したと言われています。しかし、15歳以上の患者の割合が増加し、成人を含む百日咳患者の発生動向が正確に把握出来ていない状況から本年1月より五類感染症、小児科定点把握疾患から全数把握疾患に位置付けられました。

和歌山市においては、本年1月から現在まで、成人を含む14例の届出を受理しています。詳細は下記のとおりですのでお知らせいたします。

また、7月に入り小学生の届出が増加している傾向にあります。

届出週	年齢	性別	診断方法	ワクチン 接種歴
3	43	女	IgG	不明
5	73	男	IgA	不明
8	73	女	IgG	不明
22	5	女	IgG	4回
22	33	男	IgG	不明
24	15	男	IgG	4回
26	47	女	IgG	不明
28	23	女	IgG	不明
28	10	女	LAMP法	4回
30	44	男	IgG	不明
31	8	女	LAMP法	4回
32	10	男	IgM	4回
32	7	女	IgM,IgA	4回
33	11	女	LAMP法	4回

\*IgGは全て単一血清で抗体価100EU/mL以上。



引き続き、症状や所見から百日咳が疑われ、抗体の検出や遺伝子の検出により、百日咳患者と診断した場合には、届出いただきますようお願いいたします。

《参考：小児科定点把握時の報告数》

小児科定点 (～H29.12.31 まで)				
平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年
5	16	5	6	1